

「首都圏における拠点配置体制の一部見直しについて」 会社から提案を受ける！

7月30日、地本は会社から「首都圏における拠点配置体制の一部見直しについて」提案を受けました。

一部の施設・電気職場では地上設備の故障発生時に即時に対応するために復旧拠点を配置していますが、会社は輸送影響度や出勤実績を勘案し、拠点配置体制を見直したいと提案がありました。

1. 実施内容

		現行	見直し後
拠点配置	保線	【8箇所】 神田・品川・新宿・池袋・田端・上野・金町・我孫子	【7箇所】 神田・品川・新宿・池袋・田端・金町・我孫子
	信号	【7箇所】 東京・田端・金町・池袋・我孫子・品川・新宿	【5箇所】 東京・田端・金町・品川・新宿
社員配置	保線	J R社員 1名 (宿直 1名) パートナー会社社員 1名	J R社員 2名を基本 (宿直 1名・夜間作業員 1名) ※品川・池袋は現行の体制
	信号	J R社員 2名を基本 (宿直 2名) ※一部の拠点はパートナー会社に委託	J R社員 2名を基本 (宿直 2名)

※赤字部分は品川支部の施設・電気職場が関係する部分

2. 実施時期

2021年10月1日

3. その他

必要な周知は実施する

主な 変化点

拠点配置

【保線】上野拠点の廃止【信号】池袋・我孫子拠点の廃止

社員配置

【保線】品川・池袋以外はJR社員(夜間作業員を追加)の配置

【信号】我孫子廃止に伴い、JR社員のための配置

2021年度に入り、6月18日湘南新宿ライン池袋・赤羽間信号装置故障、6月20日渋谷変電所トラブル(帰線ケーブル損傷)、提案当日にも湘南新宿ライン浦和・大宮間において地上設備が起因すると思われる車両故障・点検で1時間以上運転を見合わせるなど地上設備に起因する「長時間の運転見合わせ」となる事故・事象が多発しています。

品川支部の施設・電気職場においては体制に変更はありませんが「系統間のつながり」を活用し、良質な輸送サービスを提供できる体制づくり実現に向けて意見交換や議論を積み上げていきます。